

<事業名>大石りく物語から～理玖女・京極家ゆかりのまちを語る～

団体名	大石りくを語り継ぐ実行委員会
所在地	豊岡市
代表者名	実行委員長 中嶋洋二郎

事業内容	日時 令和2年12月13日(日)14時～16時(13時30分開場) 場所 豊岡コミュニティセンターほか 内容 <input type="checkbox"/> 講談公演 出演者 玉田玉秀齋(4代目) 前名 旭堂 南陽 玉田 玉山(養父市出身) ご案内 桂きん太郎 題目 理玖女・京極家ゆかりの地で聴く 「忠臣蔵」と新作「大石りく」 参集者 70名 工夫した点 ・新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず、コロナウイルスとの共生を図りながら、大石りくを持続的に語り継ぐ事業開催のための感染防止を最大テーマに、事業内容の変更や対象者の見直し、感染対策が可能な会場の確保をおこなった。 ・地域活性化へ向けた発信力・コロナ禍で沈みがちな市民が元気になるようにと熟慮を重ねた結果、講談公演を開催、地域の活力と賑わいをはかった。
	地域 豊岡市
事業の効果	① 団体(組織)内の効果 実行委員会内には、コロナ禍で中止の意見もあったが、人数の制限やコロナ感染防止対策を徹底して行い、感染者を出すことなく、有意義に大石りくを語り継ぐことができたことで、自信と積極に取り組む姿勢が重要であることを再確認できた。 ② 地域への効果 日頃お目にかかることのない講談という手法で大石りくを再認識していただいたことと、コロナ禍で沈みがちな地域の皆さんが、学び、楽しみ、笑い、笑顔になって喜んでいただいたことで、地域の活力を呼び起こす効果ときっかけになったと思われる。
事業経過	2年6月4日 夢但馬応援事業計画(案)協議 2年7月7日 事業計画協議:実行委員会(稽古堂) 2年7月16日 事業開催に向けた課題(コロナ対策)協議:実行委員会(豊岡コミュニティ) 2年7月17日 事業計画の課題と開催の是非を協議(コロナ対策) 2年8月11日 事業計画の変更(句会⇒講談公演)を協議 2年8月28日 講談開催に向けた具体化協議・調整(宵田商店街) 2年9月8日 事業計画の変更届を提出 2年9月30日 事業計画の変更届を再提出 2年11月7日 事業計画(講談公演)事業推進協議:実行委員会(じばさん) 2年12月13日 講談公演 開演(豊岡コミュニティセンター) 3年2月18日 事業の反省と今後の方向性協議(プラザ) 3年2月28日 事業終了(精算・報告書作成等)

協働の相手方	豊岡コミュニティ31、豊岡観光協会、カバンストリート、、宵田元町地域まちなか再生協議会、大石りく奉賛会、豊岡理玖子会・豊岡義士会、豊岡劇場、一般社団法人日本落語振興協会
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>① 団体（組織）の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生誕 351 年の“大石りくの遺徳と顕彰”を持続的に語り継ぐためには、新たな歴史的発見や人材の発掘、事業には資金確保が必要。今回はコロナ禍であったが、講談公演を有料で試みた。今後の推進につなげたい。 <p>② 地域の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古き良きものを伝え、誇りある豊岡の歴史・文化、まちなみ等を継続的に語り、伝えていくことで先人の知恵を学び地域づくりの礎となるという意識が薄れている。 ・豊岡の誇りでもある大石りく・その時代背景で現在のまちづくりを進めてきた京極家の歴史が織りなす姿が演劇のまち豊岡と連携することが出来るかが課題である。 <p>〈2年度以降の事業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年度の協働体制を維持し大石りくを語り継ぐ事業をさらに充実して・地域づくりにつながるよう10月の開催に向け事業計画の協議を進めたい。



2年12月13日 1作目「講談：玉田玉秀齋」



2年12月13日 2作目「講談：玉田玉秀齋」



2年12月13日 「講談：玉田玉山」



2年12月13日 「ご案内：桂きん太郎（右）」